



発行 真宗大谷派 高山教務所
発行所 出雲路 善公
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
(0577) 32-0776
\*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ
照らされて

アミダ如来は浄土からの
言葉となった仏である

近田昭夫



一九三一年生まれ。東京教区
顕真寺前住職。総会所教導、
同朋会館教導を歴任。著書に
『仏さまはどこにおられます
か?』(東本願寺出版)。

去る極月18日、土徳の
地・飛騨高山に参上した。
さすがに真宗土徳の地と
あって、「飛騨真宗門徒
の信条」にも「アミダ一
仏に帰命し」とあった。
翻って現代の世相を見
るに、仏といっても、パ
ワースポットとしても
てはやされているに過ぎ
ぬ死んだ仏ではない。
では「活きた仏」とは一
体何なのか。考え直して
みよう。仏さんといつて
も、一般に人気の高いの
は観音さま。アミダさん
など問題にもされてい
ない現状ではないか。そ
もそも、「帰命」とは、
彼方からの仰せに頭がさ
がる事である。では彼方
とは何か。

人知の彼方、コノ世ハ
ワカッテイルとしている
人知を悲しむ浄土からの
音信。
人知では、コノ世ノコ
トハワカッテイルとして
いるが、本当にそうだろ
うか。

愚痴身とは私の事
この勘違い・思い上が
りを悲しむ真心から活動
し始めたのが「浄土」で
あり「仏・如来さま」な
のだ。「浄土」も、「濁
世」に対する清浄国土」と
いう状態ではなく、「土
ヲ清ム」とよめば、人生
の汚染を知らしめ、浄化
するはたらきと理解がで
きる。では、コノ世が人
知に汚染されているとは

その事実に無知・無自覚
な愚かさを表す「愚」
の字を加えて、「愚痴」
の二字となる。愚痴は、
日常用語にもなっている
が、人知から生まれた言
葉ではあるまい。浄土を
莊嚴されたアミダ仏から
のよびかけだと思ふ。
その愚痴も、昨日や今日
の出来事ではないという
ので、「我等愚痴の身、曠
劫来(はかりしれぬ古か
ら)の流転のすがた」と、
善導大師はおっしゃる。

身と心とのズレ
われら愚痴の身であり
ながら、そんなことは夢
にも思わぬ。その誤差に
思い悩んでいたのが、入
院中の心境であった。身
は老・病・死の事実にあ
りながら、その事実を
受容しようとしないう、心
の不正直さ。その悩みを
洩らしたところ、ある重
症患者から忠告された。
「あなたは病人になりき
れていない」と。どうし
たらいいのかと、心のあ
りようで途方にくれてい
た。今の身の事実を立て
ば、自分のなすべき事は
明らか。病院のルールに
従い、リハビリに専念す
る事その他には、何もな
い。そこに決着がついた
ら、日夜思い惑っていた
悩みが吹っ飛んでいた。
そんな最中、或る言葉
が思い起こされた。生涯
曾我量深先生に師事され
た、越前武生の松原現釜
師の一言。「真宗は『聞
法第一』と申しますが、
一体何を、どう聞いたら
よろしいのか」の問いに
「ソナナコトデハナイと
知らされるんじや」と一
喝された由。思いもよら
ぬ時に聞こえてくるのが、
如来さまの声。その時、
心のモヤモヤが横超断さ
れる。不思議な事です。
『歎異抄』第9章に
「しかるに仏かねてしろ
しめして、煩惱具足の凡
夫(身の事実を忘れ、心
のよしあしに思い惑う愚
か者よ)とおおせられた
ることなれば、他力の悲
願は、かくのごときわれ
らがためなりけり」とし
られて、いよいよたのもし
くおほゆるなり。」とあ
る。

ほればれと念仏申して
いた、一文不知の坂下ト
ク刀自の常の言に、
「仏語二虚妄ナシ、ナン
マンガブツ ナンマンガ
ブツ」と。
如来・聖人の実語(ほ
んとこの言葉)に嘘はあ
りませんでした。
言亡慮絶、ココロモコ
トバモ絶エタレバ ナン
マンガブツ ナンマンガ
ブツ ナンマンガブツと
ご返事申すのみ。
アミダさまは、ナムア
ミダブツという言葉と
なった仏さま。だから、
真宗では、教えを聞く事
(聞法)が生命なのだ。

おしなや
くわんざら
お盆とは何をすれば先祖は
よみとらへるのか



問
お盆は、正式には「盂蘭盆会」とい
います。「仏説盂蘭盆経」という
お経に説かれた、お釈迦さまの弟子・
目連尊者と亡き母の物語に由来します。
目連尊者が功德を積んで、餓鬼道に落
ちて苦しむ母を救うというインドの物
語。それに「先祖の霊が帰る」という日
本独自の民俗信仰が結びついて、先祖
の霊をお迎えして供養するという、現
在の一般的なお盆の形になってい
るようです。その歴史は古く、推古天皇の
時代に行われたのが初めてとされ、各
家にお仏壇を持つことが普及した江戸

時代に、一般的に広まったそうです。
私たちに、親が二人(父と母)いま
す。10代週れば先祖は1024人。20
代週れば100万人を超え、30代週るとな
ると10億人と途方もない数になります。
そんなたくさんのご先祖さまをお迎
えするのはとても大変ですね。また、
ご先祖さまは分家や嫁ぎ先には来てく
ださるのでしょうか。
ご先祖さまを大切にされることはと
ても尊いことですが、それ以上に、ご
先祖さま一人ひとりが生きられた尊い
命がながれて、今、私が生かされて
いること、我が命を生き尽くしていけ
る教えに出遇うことが大切ではないか
と思います。
お盆を機縁として我が身・我が命を
ふり返り、命の尊さに目覚め、教えを
聞き続けていくことが、本当の供養で
はないでしょうか。

夏の暁天講座
8月1日(月) 講師:長谷正當氏(京都大学名誉教授)
8月2日(火) 講師:岩茸伸一氏(高山市民防災研究会事務局長)
8月3日(水) 講師:三本昌之氏(清見組蓮徳寺住職)
8月4日(木) 講師:水島見一氏(大谷大学特別契約教授)
8月5日(金) 講師:草野顕之氏(前大谷大学長)

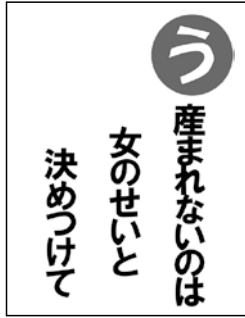
飛騨学場
8月1日~3日 講師:長谷正當氏(京都大学名誉教授)
8月4日~5日 講師:水島見一氏(大谷大学特別契約教授)
追弔会・講話:午後1時~ 会場:本堂・御坊会館
8月1日~3日 講師:長谷正當氏(京都大学名誉教授)
8月4日 講師:草野顕之氏(前大谷大学長)
8月5日 講師:水島見一氏(大谷大学特別契約教授)

☎テレホン法話(0577)34(2313) 〇7月21日~31日:澤邊恵亮氏「誓願寺」 〇8月1日~10日:山本憲人氏「貫藏寺」 〇8月11日~20日:三枝香氏「随縁寺」 宗教トラブル相談窓口(0577)13210763

女と男の

ナムアミダブツ ⑭

藤場 芳子



産む・産まない・産めない

思いがけない妊娠に悩むのは未婚の女性だけではありません。統計によると、中絶するのは若い人たちより実は四十代の既婚者が多いのだそうです。その年齢での妊娠は恥ずかしい、既に子どもがいる、経済的に無理などがその理由だとか。不安な気持ちで翌月を迎え、生理が来てホッとした経験のある女性は多いのではないかと思います。これは男性には実感できないかもしれませんが。

予期せぬ妊娠(唐突な質問ですが、あなたが予期せぬ妊娠をして(させて)しまったらどうしますか。結婚しているか否か、働いているか否かなどによって、答えが違って来るかもしれませんね。私がおんな質問をしたのは次のようなことがあったからなのです。久しぶりに友人宅を訪れたら、赤ちゃんを抱いた友人が玄関先に出てきました。年齢から言って彼女が産んだとは考えられないけれど、二十代前半の娘さんが結婚したとも聞いていませんでした。部屋に通された後、友人は小声で言いました。「シングルマザーになったのよ」と。なるほど、そういうことか。聞くところによると、相手の家に妊娠を告げに行きたけれど、親は「そんなこと、息子から聞いていない」の一点張りだったというのです。娘さんの気持ちを察すると何と言葉をかけていいかわかりませんでした。

一方、産むことを奪われた女性たちもいます。「不良な子孫の出生を防止する」ために障害や病気を理由に不妊手術がされたのです(「優生保護法」・1948年)。いのちを選別するこの差別的な条項は1996年に削除され、今は経済的な理由と強姦を理由にした中絶が「母体保護法」として認められています。少子化対策が叫ばれている現在ですが、「産むのが正解」ではなく、産みたい人には安心して産める環境を、産まないという生き方を選択した(せざるを得なかった)人も尊重される社会であって欲しいと思います。

国の政策と私たち

産む、産まないはまったくプライベートなことですが、実は国が大きく関与しています。1869(明治2)年に「墮胎禁止令」が出て、1907年には「刑法」の墮胎罪ができました。女性や施術者は処罰されますが、なぜか相手の男性はお咎めなしです。この法律は百年以上経った今も存在しています。戦中は富国強兵のために「子宝部隊」として「産めよ増やせよ」が奨励されました。

向き合う生き方

親鸞聖人はどうだったでしょうか。私生活については多くを語っておられませんが、ご自分を「愛欲の広海に沈没」する存在だとし、そのことを「恥ずべし、傷むべし」と書き残しておられます。これは単に嘆き悲しんでいるのではなく、阿弥陀如来の智慧の光に出あうことよって照らし出された、抜き差しならない我が身の事実です。その事実を誠実に向き合っているからこそ、この言葉が自分のこととして私たちの胸に響くのではないのでしょうか。

男性にとつては妊娠や出産の話はピンとこないのが正直なところかもしれません。もう一人の「当事者」としてこの問題に向き合って欲しいのです。そうすれば、男女の関係が今までは少し違ってくるように思うのですが、あなたはどう思いますか。

次回は酒井義一さんの「私を照らすひかりの言葉⑮」です。

7月21日(木)~24日(日)、30日(土)、31日(日) ラジオ体操終了後 敬勝寺(05769-6-1421) 7月21日(木)~8月20日(土) 午前7時から

子ども会開催寺院

【鉄砲町】 真蓮寺(0577-34-2507) 隔月1回(土曜か日曜) 午前9時~11時30分 ※寺報にて案内します。一度来てくれた方にはハガキで直接案内します。

【岡本町】 願生寺(0577-32-0032) 7月23日(土) 午前9時から ※毎月1回(土曜日) 午前9時から ※一度来てくれた方には郵便にて直接案内します。

【下之切町】 西蓮寺(0577-33-8090) 7月24日(日) 午前10時~12時

【山口町】 了心寺(0577-32-5956) 毎週日曜日 午前8時30分から

【丹生川】 還來寺(0577-78-1071) 毎月2回 午前9時から

【宮田】 賢誓寺(0576-55-0747) 子ども会 7月27日(水) 午前9時~12時 おとまり会 8月18日(木)~19日(金) 午後4時~翌日10時

【一之宮】 往還寺(0577-53-2004) 8月21日(日) 午前8時~9時 ※9月以降も毎月1回開催します。

【久々野】 久々野教会(0577-53-2004往還寺) 8月28日(日) 午前8時30分~9時30分 ※9月以降も毎月1回開催します。

【小坂】 浄福寺(0576-62-2208) ①7月27日(水) 午前9時30分~11時 ②8月9日(火) 午前10時30分~12時 ③8月19日(金) 午前9時30分~11時

夏休みおつとめ会開催寺院

【高山】 本教寺(0577-32-1748) 夏休み中(お盆まで) ラジオ体操終了後 秋聲寺(0577-33-9324) 7月22日(金)から毎日 ラジオ体操終了後 西蓮寺(0577-33-8090) 7月25日(月)~29日(金) ラジオ体操終了後 隨縁寺(0577-32-2567) 7月23日(土)、31日(日) (会場:隨縁寺) 午前7時30分~ 7月26日(火) (会場:下切町公民館) ラジオ体操終了後 誓願寺(0577-32-5241) 7月21日(木)~30日(土) ラジオ体操終了後

【丹生川】 還來寺(0577-78-1071) 7月21日(木)~29日(金) ※土日を除く ラジオ体操終了後

【国府】 南春寺(0577-72-2836) 7月21日(木)~30日(土) ラジオ体操終了後 西念寺(0577-72-4585) 7月21日(木)~28日(木) (会場:西念寺) 7月21日(木)~25日(月) (会場:金橋公民館) 7月26日(火)~28日(木) (会場:桜野集会所) ラジオ体操終了後1時間程度

【社川】 浄念寺(05769-2-2094) 7月19日(火)~8月25日(木) 午前6時45分~午前7時30分 寶藏寺(05769-2-2124) 7月25日(月)~28日(木) ラジオ体操終了後 蓮勝寺(05769-2-2043) 7月21日(木)~8月6日(土) (会場:蓮勝寺) 8月8日(月)~12日(金) (会場:下野々候公民館) 8月17日(水)~25日(木) (会場:下野々候公民館) ラジオ体操終了後

【白川】 常徳寺(05769-5-2029)

6月25日(土)の「高山教区婦人研修会」にてお預かりしました熊本地震の救援金45,947円は本山を通して現地へ送らせていただきます。

ご壇案内

7月

22日(金) 本光坊【下呂森】 24日(日) 往還寺【一之宮町】 西教寺【朝日町】 大徳寺【高根町】

8月

7日(日) 秋聲寺【新宮町】 18日(木) 常徳寺【白川村】 19日(金) 西光寺【清見町】 浄樂寺【白川村】 20日(土) 常照寺【朝日町】 法正寺【朝日町】 法蓮寺【白川村】 蓮光寺【白川村】

別院虫干し

期日 7月24日(日) 会場 別院庫裡ホール 時間 午前10時~午後3時 ※見学は自由です。雨天の場合は中止。

夏まきご坊 2016.8.16(火) 午後5時~(雨天決行)

「チェルノブイリ30年」写真展 ー 私たちはどこへと歩むのか ー



今年はチェルノブイリ原発事故からちょうど30年。当時生まれた子どもたちは親となり、自身が子どもを育てる世代となりました。等しく過ぎ去った30年。けれど、その30年の「重み」は本当に同じだと言えるでしょうか。福島原発事故から今年で5年。チェルノブイリの30年に目を向けることは、今後の福島の25年に目を向けること、今なお原子力に依存して生きる、私たち自身の「これから」に目を向けることです。

日時 7月30日(土)~8月31日(水) 午前9時~午後4時 場所 高山別院本堂および寺宝館

入場無料

主催:飛騨仏教青年会 共催:高山教区教化委員会 協賛:高山別院/飛騨学協 協力:チェルノブイリ子ども基金 後援:高山市 高山市教育委員会